

ともしび

僧侶になり二十年の節目に



井上直之
(釋直道)

僧侶になり二十年という節目を迎えました。

昨年の残暑を忘れてしまうほど寒い日が続いています。皆さまいかがお過ごしでしょうか。私の家族は、年明けから流行っているインフルエンザに次女が感染し、それが治ったと思ったら、今度は長女が風邪をひきました。

子育ては「ホッとしたのもつかの間」の繰り返しだとなつくづく感じています。気づけばこの春娘たちは小学四年生と二年生、早いものです。

そして、私事で恐縮ですが、今年で僧侶となり二十年が経ちました。得度を終えたあの日のことは今でも鮮明に覚えています。

京都から宗願寺に帰ってくると祖母がおり、青ぞり頭の私の顔を見ては笑いをこらえているようにも泣きそうにも見える、なんとも言えない表情をしていました。

その時、偶然居合わせた婦人会の戸蔭さんと渡辺さんと一緒に

「讃仏偈」をお勤めし、僧侶としての第一歩を踏み出しました。

前住職である祖母も戸蔭さんも亡くなり、あの日のことを思うと亡き人を通して今の私が生かされているのだなあ……と、仏縁の尊さを深く感じております。

さて、以前こんな出来事がありました。浄土真宗では、戒名ではなく法名をいただきますが、ある方が、亡くなった父親がお煎餅が大好きだったので、法名を「釋煎餅」にしてほしいかと訪ねてきたのです。私は「冗談だろ」と思い、そんな法名はおかしいと断りました。

ただ、法名は皆等しくともにお浄土への道を歩み仏さま(仏弟子)にさせていたただくためのものです。「釋煎餅」だからといって成仏できないうことはありません。

とはいえ煎餅という名前はやはりおかしいので断った私は間違っていないのだと思っていました。しかし、その後もなぜか心のもやもやが消えません。

そして、しばらく考えるとだんだん見えてきたのです。それは法名の良し悪しではなく、自分の「物差し」で頭ごなしに相手を否定している自分の姿でした。相手の話を聞かずに「自分の都合」で、最初から他者を間違っていると決めつけている私の姿でした。

気づくとこのおかしな法名は、身勝手な私自身に気付かせてくれる大切なご縁となっていたのです。私たちは、自分の力で生きていくと思ひ込んでいただけで、実は様々な仏縁に照らされて生かされています。

僧侶になり二十年という節目を迎えましたが、今後も皆さまとともに仏法の大切さを味わい、精進させていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

私が指導させていただいている「宗願寺合唱団」が高齢化等による団員の減少のため、活動を休止することになりました。

前住職が育てた女声合唱の「新樹会」や混声合唱の「鸞」など、五十年以上の月日を重ねてきた仏教讃歌普及のための、宗願寺にとってはなくてはならない活動です。

今後は、壮年会と婦人会を中心に、音楽法要の伝統を守り、音楽を通して仏法を弘めることに力を入れてまいりたいと考えています。(任職)

出遇うということ

釋由真

前号の住職の文章の中で、いちばん大切な部分が「法然上人との出遭い」と印刷されていました。これは私の校正ミスで「出遇い」という漢字を使うのが正しかったのです。

今回、この訂正文を書くにあたり、「出遇い」という言葉について調べてみました。

「遭う」とは、思いがけず好ましくない出来事に直面することを指す言葉で「散々な目に遭う」等ネガティブな意味に使われる、とのこと、法然上人とのご縁が「出遭い」である筈がありません。

「出遇い」も思いがけないことが身に起こるということを指しますが、その中でも良いことに巡り合うというニュアンスがあり「千載一偶のチャンス」等のように、前向きな出来事に対して使うことが多いとのことでした。

校正ミスをしたおかげで、いつも何となく使っている「出遇い」という言葉について学び直すことができました。

楽しい花まつり

子ども会(キッズサンガ)の花まつりは、長い間五月五日でしたが、ゴールデンウィーク中は出かける方が多く、人が集まらないので、最近では四月中の日曜日に開催しています。

今年四月十三日です。その日程には理由があります。



花まつり

裏山のタケノコがたくさん収穫できそうな時期、お斎のタケノコカレーのためです。これも前住職妙澄師が得意料理としていたものです。カレーとサラダ、苺のゼリー、シフォンケーキ等を手作りしてお待ちしています。お釈迦さまに甘茶をかけてお参りをし、仏さまのお話を聞き、一緒に遊ぶ機会をいただき、その後は楽しく遊ばす。お母さんたちもお喋りに花が咲きます。楽しい一日をお寺で過ごしてみませんか。参加希望の方は、お電話ください。

花まつり(子ども会)	4月13日(日)	11時
宗祖降誕会	4月29日(火)	11時
あじさい忌	6月23日(月)	11時
全戦没者追悼法要	8月15日(金)	18時
恵信尼公法要・敬老会	9月16日(火)	11時

仏教壮年会

二月九日(日)築地本願寺での東京教区仏結成記念日研修会に九名で参加しました。

ご講師のお話を聞き、私たちもお寺を守るための力になりたいとの決意を新たにいたしました。

研修会終了後、新橋・汐留の高層ビルの四十六階にある居酒屋で懇親会を開き、楽しく美味しい時間を過ごしました。



懇親会の様子

壮年会では、茨城西組の連続研修会に参加して学びを深めています。お寺での法要の準備や清掃等の奉仕活動、婦人会とともに子ども会のお世話もさせていただいています。

年に数回の楽しい飲み会もあります。多くの方のご参加をお待ちしています。

仏教婦人会

お寺での大きな行事のときのお齋作りを担当しています。この度の永代経は五目寿司、天ぷら、昆布の佃煮、漬物等、紅シヨウガ以外はすべて手作りです。

毎月十六日の定例会は、正信偈のお勤め、副住職の法話、その後

茶話会、笑顔いっぱいひとときです。

壮年会と一緒に連続研修会に参加したり、子ども会のお世話等の活動もしています。

三月四日(火)には、築地本願寺での東京教区の日研修会に参加する予定です。

会員数が減り寂しくなりましたが、関心のある方はご連絡ください。

彩弥と弥那との日々

井上明寿子(釋妙寿)

昨年十一月、天気の良い日に七五三のお祝いをしました。弥那が七歳の最後の七五三ということで、九歳の彩弥と一緒に着物を着てお祝いしました。

大きくなったなあ嬉しく思うと同時に時間の速さを感じ、しみじみとしてしまいました。

さて先日、小学校の持久走記録会を見に行きました。学年ごとに時間が違うので、私は彩弥と弥那の二時間を見学することにしました。

スタートを切ると保護者の応援が始まり、しばらくすると少しずつ長い列になっていきました。



着物が大好き!

淡々と走る子、疲れて歩き出す子、保護者に手を振りコースを外れる子……。様々ですが、皆一生懸命走り、無事にゴールしました。

彩弥も弥那も「疲れたー」と全く同じことを言いながら、すつきりした表情で戻ってきました。

一年生も三年生も先頭から最後まで差があったので、「記録会」とはいえ一位の子はうれしかったでしょうし、苦手な子は終わってホッとしたと思います。

私たちは順位付けや競争が溶け込んだ社会で生きています。そこに良いも悪いもないのですが、人の心はそれでは済みません。勝ち負けを含め、その場その場で一喜一憂する私たちは、生まれたときからそのようなにつくられ、また、自分の意志で選択を続け、その積み重ねを自分として生きています。

それはこの世をより良く生き抜くための知恵なのですが、大切なことや本当のものを失う原因にもなっています。親鸞聖人はそれを自力のはからいと仰いました。

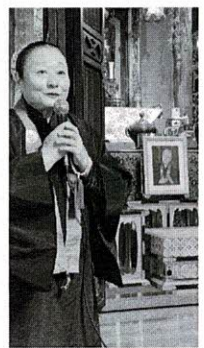
大谷派の安田理深先生も、自力の弊害を「本当のものが分からな」と、本当ではないものを本当にする」と指摘されています。信心を得るといえるのは、そういう真実が見えてくるということなのでしょう。

迷いの自力で生きる私たちですが、それでもご縁に導かれ、み教えを通して生かされていると気づいていくことができます。

自力のスタートは他力のスタートでもあることを忘れずにいたいと思います。(坊守)

伝えたいこと

井上由美子(釋由真)



秋嶺忌に

昨年末、都心のお寺で短い法話をするようになりました。

自坊ではないし、他の宗派の僧侶がいるし、前日から少し緊張して、ちゃんと原稿を用意し、その場に臨みました。

ところが、目の前に座った方々のお顔を見ていたら、頭に入れた筈の法話の内容を忘れ、手にしたメモを見ることも忘れ、自分の思いを勝手に語っていたのです。

意外なことに、聞いていた仲間僧侶から、良い法話だったとお褒めの言葉をいただきました。何を話したのかももう覚えななな……。心に深い傷を負った方々に向かつて、自分の心から出てくる自然な思いを話したのだと思います。

永代経の法話では、仏さまの尊いおはたらきが届くのは、将来自分が死んだ後等ではなく「今、ここ」なのだということをお話させていたきたいと思います。奇跡とは、何か不思議なことが起こることではなく、今ここに自分が存在することなのだ、お伝えしたいです。

昨年の両膝の手術とその後のリハビリ、お寺を留守にしてお心配をおかけしました。感謝の気持ちもお伝えしたいと思います。(副住職)

編集後記

昨年の夏から、本堂の前のイチヨウの木の周辺が「立ち入り禁止」となっていて、お参りの皆さまにご迷惑をおかけしました。この度枝の伐採がすんで無事にその下を歩けるようになりました。

毎年、立春拝賀式(女正月)にはクルミ寿司を作るのが恒例です。墓地のクルミの木が枯れ、その後は渡良瀬遊水地のクルミを料理していましたが、昨年は実が落ちていないとのことで、今年はケーキ用のアメリカのクルミで餡煮を作り、干瓢、干し椎茸、紅シヨウガと一緒に海苔巻きにしました。

地球規模の異常気象がお寺の行事にも影響していると気づかされます。

昨年秋から三件、門信徒会に入会申し込みがありました。ただ、後継者がいないためにお寺を離れる方はその何倍もいらつしやいます。厳しい状況が続いています。

元気になっていただいたこの身体で、お寺のためにもうひとがんばりしたいと思っています。合掌

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)

(印刷所・阿部印刷)

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://sougwanji.com/>